

高岡厚生センター運営協議会

日 時 令和4年11月16日(水)14時～15時
場 所 高岡エクール 1F多目的ホール
出席者 委員15名 代理4名 (委員25名中)
県 厚生部次長
高岡厚生センター所長 ほか

1 開 会

2 あいさつ (厚生部次長)

3 報告事項

(1) 高岡厚生センター事業の概要について

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応について

4 閉 会

質疑及び意見等

厚生センターの概要について

(委員) 管内でレジオネラが多いと説明があったが、具体的な数値を教えてください。

(事務局) 概要 P58 の第 4 類のところに高岡管内、県内の人数が記載されている。

人口で割ると 3 分の 1 以上となるため、多いと認識している。

(委員) 以前からも言われているが、高岡管内が多い理由はあるのか。

(事務局) レジオネラに関しては常在菌で、常に環境の中にある。

富山県の県民性として温泉好きということがあり、大きな公衆浴場を利用する機会も多いと言われている。検査等も実施しているが、関連が完全に一致した事例はないが、関係があるのではないかと考えている。

はっきりは言えないが、衛生研究所でもレジオネラの研究も進んでおり、医療機関でも見つけるのが上手であると感じている。

新型コロナウイルス感染症について

(委員) 現在の職場における濃厚接触者の定義を教えてください。

(事務局) 1 m 以内の距離でマスクなしで 15 分以上接触があった方という定義は変更なし。国の判断もあり、職場での濃厚接触者の判断を厚生センターで実施することはしておらず、厚生センターからは、同居家族についてのみ濃厚接触者として伝えている。各職場では、接触状況を確認し濃厚接触者に該当するかどうかの判断も含め、対応をお願いしている。

(委員) スライド 11 には、学校ではクラスターが発生していないとの記載がある。クラスや部活内で多数の感染がみられていたと思うが、これは感染の原因がはっきりしないからということか。それとも、それ以外に何か定義があるのか。

(事務局) 学校で児童生徒の感染者の発生はあるが、国の示したクラスターの定義にある“リンクが追えないもの”が多い。学校での感染なのか家庭での感染なのか分からないことが多いため、クラスターにしづらいという現状がある。

(委員) スライド最後に「県民の皆様へ」3 点目に「体調不良時は出勤や登校、外出等を控え、速やかに医療機関を受診！」とあるが国からは重症化リスクがない方であれば検査キットを使用し、陽性であれば登録するという方針である。県としては、記載の方針で進めていくのか。

(事務局) 現在は、感染者数も増えていないため、基礎疾患がある等必要な方は受診という方針で進めている。今後の感染状況をみて検討してい

く必要があると考えている。

(委員) すでに公的病院では対応が大変であり、自宅で検査してほしいという意見が出ている。すべてが医療機関にというのは見直していただきたい。

(委員) ヘルスボランティア会員の中で、5回目ワクチン接種による身体への影響を心配する声が上がっている。高齢者の場合はいいが、若い方は体内に蓄積されるのではないかという意見もでてきている。会員が安心できるように、どのように声掛けをしていけばよいか。

(事務局) ワクチンを何回も接種する目的は、期間をおくと抗体がなくなるからである。4回目のワクチン接種によって獲得された抗体はすでになくなっており、そのため各市でも追加接種をお願いしている。5回目接種のタイミングで、ようやくオミクロン株にも対応したワクチンが出来、これから蔓延していくことも懸念されるため、ぜひ接種をお願いしたい。

(委員) RNA ワクチンは体内で分解され、数日以内には排出されるため、体内には積されない。海外では、3か月ごとに接種しており、もっと接種回数は多いが、身体への影響はみられていない。接種は、感染予防にはならないが、重症化予防になることがデータでも明らかになっている。医療側としてはぜひ、接種をお願いしたい。

結核予防について

(委員) 活動の一環で、結核予防の普及啓発や複十字支援を行っているが、結核への関心が薄れているように感じる。どのような年齢層にアプローチしていけばよいか、普及啓発時の情報として知っておきたく、教えていただきたい。

(事務局) 厚生センターの概要 P54 にお示ししたとおり、発病しているのはほとんど 80 歳以上の高齢者である。予防として、各市より施設入所者へ健診の案内等を行い普及啓発活動を進めている。他の疾患がある方も多く、定期受診の際にレントゲン検査等なども医療機関の医師にもお願いをしている。厚生センターにも普及啓発活動にご利用いただける資料があるため、様々なところでご活用いただきたい。

(委員) 高齢者への予防にむけたアドバイスがあれば教えていただきたい。

(事務局) 2週間以上継続する咳や、いつもと違う症状がある場合は受診することと、年1回は肺がん健診そして住民健診を受けてくださいとスタンダードをお願いしている。コロナでの受診控えや制約があるが、引き続き啓発をお願いしたい。

おわりに

(委員(会長)) コロナで、医療関係者、介護関係者は大変な思いをした。その中でも厚生センターが一番大変だったと思う。普通では考え

られない業務量だった。その中でも厚生センターはよく頑張って仕事をされた。なんとか第7波を乗り切れたのも厚生センターのおかげであると思っている。第8波も来ているため、厚生センター始め関係者で力を合わせてやっていきたいと考えている。